2020.7.5　年間第 14 主日

休ませてあげよう

マタイ福音書 11 章 25-30

そのとき、イエスはこう言われた。「天地の主である父よ、あなたをほめたたえます。これらのことを知恵ある者や賢い者には隠して、幼子のような者にお示しになりました。そうです、父よ、これは御心に適うことでした。すべてのことは、父からわたしに任せられています。父のほかに子を知る者はなく、子と、子が示そうと思う者のほかには、父を知る者はいません。疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。わたしは柔和で謙遜な者だから、わたしの軛を負い、わたしに学びなさい。そうすれば、あなたがたは安らぎを得られる。わたしの軛は負いやすく、わたしの荷は軽いからである。」

説教

「わたしのもとに来なさい。休ませてあげよう」
イエスさまはこう呼びかけられています。

そうは言ってもウッカリ休んでいるとあとが大変になります。学生だったら授業を一回休んだら、そのあと授業においついていくのに大変になります。仕事を休むと仕事がたまってあとが大変です。現場仕事している人ならほかの人に迷惑がかかったり、シワ寄せがいって、人間関係がぎくしゃくするかもしれません。時給支払いの仕事だったら休んだ分だけ収入が減ります。そうそう休んじゃいられないのが世の中です。

休め休めというイエスさまが浮世離れしているのでしょうか。そうそう休んじゃいられないと思っているわたしたちこそが現実から離れてしまっている、イエスさまこそがほんとうに生きていて、わたしたちは誤った生き方をしてしまっている、こう考えるとイエス目線にピントが合うようにおもいます。

ところでイエスさまが負っている荷とはなんでしょうか？

一言でいえば神の御心の実現です。それをイエスさまは定められたとおりのやり方で十字架上で成し遂げられました。わたしたちが自分の重荷をおろしてイエスさまの荷を担ぐこととは現実的にどんなことしょうか？

イエスさまと同じように十字架を背負うことを神さまはわたしたちに期待しているのでしょうか。わたしにはそうは思えません。イエスさまはわたしの荷物は軽い、とおっしゃっています。
わたしたちは自分自身に重いくびきをつけて、ほんらいは軽いはずの荷物をわざわざ重いものに取り換えてしまっている、としたらどうでしょう。イエスさまのもとに行き、重い荷物をおろして休み、そこで改めてイエスさまに学び、イエスさまの薦めるくびきに取り換え、イエスさまの荷物をかついでみたらどうなるのでしょうか。楽になるはずです。
そんなことはわかっているよ、だから礼拝にきたんじゃないか。もったいつけずにイエスのくびきと軽い荷物をわたしてくれよ、オレはサッサと楽になりたいんだ。という気分になるのはある意味当たり前のことです。でも教会は出口でイエスのくびきを配っていません。それを始めたら宗教サギです。ただ礼拝をおこないイエスのことばを解説するだけが教会の役割です。あとは自分で悟ってください、というのが宗教の立場であり、限界です。

> **疲れた者、重荷を負う者は、だれでもわたしのもとに来なさい。休ませてあげよう。**
> マタイ 11:28

イエスさまのみことばがあなたのこころに届きますように。